

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	鍼灸美容学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法		講義	
科 目 名	臨床医学各論 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60	(2)	時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時間	通年	教室名	講義室		
担 当 教 員	大西 真	実務経験と その関連資格						
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>人が病に侵されるとき、どのような原因で、どのような症状や過程をたどるかを、西洋医学的な見地から理解する。なかでも整形外科疾患や神経疾患の学習は、基本的な鍼灸治療への一助となる。また、病院などで行われている検査方法や治療、疫学などについても学び、その知識を未来の臨床現場における応用に向けての基礎とすることで、患者のために働く社会貢献のできる鍼灸師となることを目指す。</p>								
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>平常点(小テスト、提出物、口頭試問、積極的発言など)30%、期末試験70%の合計100点満点で評価します。平常点については期末試験までに点数経過、最終得点をお知らせします。WEB授業による小テストや平常点に関する内容変更は随時、説明させていただきます。</p>								
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>臨床医学各論(医歯薬出版株式会社)、配布資料など</p>								
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>講義内容や演習内容から実技系科目の中で行えるものは実際に確認する。小テストを自分なりに演習形式で繰り返し知識を定着させる。自分に合った学習方法を見出すことが重要となる。理学検査などは実技補習などで反復練習をし身体で覚える。自分の周りを見渡し、病気やその症状について常に考えること。疫学や治療法だけでなく、その人となりや感情、環境など多次元的に捉えるほうが良い。</p>								
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>積極的に学ぶことで、その姿勢から楽しさが生まれます。これから学ぶ内容は、生活や仕事に役立つものばかりです。楽しく学ぶことが出来れば、結果は自ずとついてくるものです。ご要望にお応えしたいと思いますので、授業へのリクエストなど、どんどんお待ちしております。</p>								
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容			
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	教科書の整形外科的治療分類を理解した上で、鍼灸治療としての対処を認識し臨床に応用できる。整形外科疾患におけるレントゲン所見の重要性から画像診断の学習意義を高め分類・説明できる。	教科書 配布資料など	教科書の整形外科疾患について目次を参考にどのような疾患が含まれているか概略程度をおさえておく。			
		各コマにおける授業予定	治療と画像診断 ■教科書調べ 関節の疾患 筋や腱の炎症 可動域異常 ■教科書調べ 変形性関節症(膝関節・股関節・足関節・肘関節・手指の関節)					
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	変形性膝関節症について理解し解答することでインプット・アウトプットを体現することができる。 関節による脱臼の特徴を理解し説明できる。	教科書 配布資料など	第1回の復習をし、小テストの範囲について予習しておく。			
		各コマにおける授業予定	●小テスト①:変形性膝関節症 脱臼(肩関節・股関節) 先天性股関節脱臼 ★股関節ワーク					
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	坐骨神経痛をおこす疾患とその特徴ならびに腰痛について理解し、基礎を固めることで実技や臨床に応用できる。疾患に見合った徒手検査を理解し臨床や実技に応用できる。	教科書 配布資料など	第2回の復習をし、坐骨神経について復習しておく。			
		各コマにおける授業予定	坐骨神経痛をおこす疾患 腰椎椎間板ヘルニア 腰部変形性脊椎症 腰部脊柱管狭窄症 脊椎分離すべり症					
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	坐骨神経痛をおこす疾患とその特徴ならびに腰痛について理解し、基礎を固めることで臨床や実技に応用できる。 ヘルニアの高位診断を理解し実践応用できる。	教科書 配布資料など	第3回の復習をし、坐骨神経をおこす疾患について理解しておく。1年生で学習した椎体とその靭帯、脊柱管について復習しておく。			
		各コマにおける授業予定	坐骨神経痛をおこす疾患 腰部脊柱管狭窄症 後縦靭帯骨化症 ★椎体と靭帯ワーク 頸部変形性脊椎症と徒手検査 ★ヘルニアと高位診断ワーク					
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	坐骨神経痛について理解し解答することでインプット・アウトプットを体現することができる。 形態異常についてそれぞれの特徴を理解し説明できる。	教科書 配布資料など	第3回、第4回の復習をし、小テストの範囲について予習しておく。			
		各コマにおける授業予定	●小テスト②:坐骨神経痛 形態異常 ■教科書調べ 斜頸 側彎 内反足 外反母趾 ★頸部の筋と三角ワーク					

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 胸郭出口症候群について理解し、徒手検査による鑑別が出来るようになる。頸肩腕症候群の患者への鍼灸治療応用ができる。手根管症候群を解剖学的構造を踏まえた理解のもと説明でき	教科書 配布資料など	頸部の筋の走行について復習しておく。
	各コマにおける授業予定	胸郭出口症候群と徒手検査 ★胸郭出口ワーク 頸腕・頸肩腕症候群 ガングリオン 手根管症候群		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 胸郭出口症候群と手根管症候群について理解し解答することでインプット・アウトプットを体現することができる。腱鞘の構造と炎症の発生機序を理解し治療と結びつけ実践できる。	教科書 配布資料など	第6回の復習をし、小テストの範囲について予習しておく。上肢の神経、手根管の構成物とそこを通る筋や神経を復習する。腱鞘とは何か復習する。
	各コマにおける授業予定	●小テスト③: 胸郭出口症候群 手根管症候群 肘部管症候群 ギオン管症候群 絞扼性末梢神経障害 腱鞘炎(ばね指、ドケルバン病)		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 重症筋無力症について理解し説明できる。五十肩ならびに肩関節周囲炎の特徴を理解し治療応用できる。検査法を理解し実技で実践できる。さらに鑑別から治療の流れを意識できる。	教科書 配布資料など	上肢の骨・筋について復習する。神経筋接合部について調べておく。
	各コマにおける授業予定	重症筋無力症 五十肩 上腕二頭筋長頭腱炎や肩峰下滑液胞炎などの肩関節周囲炎 ★上腕二頭筋ワーク		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 五十肩について解答しインプット・アウトプットを体現することができる。捻挫への治療意義を理解し治療応用できる。スポーツ外傷を理解し治療応用できる。	教科書 配布資料など	第8回の復習をし、小テストの範囲について予習しておく。解剖学で学習した肘関節を構成するものについて復習する。
	各コマにおける授業予定	●小テスト④: 五十肩 捻挫 スポーツ外傷(テニス肘 ゴルフ肘 野球肘) 離断性骨軟骨炎		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 各スポーツの障害を理解した上で、鍼灸施術によるスポーツ選手のケア、治療、コンディショニングに役立て実施できる。	教科書 配布資料など	第9回に学習したスポーツ障害について復習する、下肢の筋について復習する。
	各コマにおける授業予定	スポーツ外傷 (野球肩 ジャンパー膝 コンパートメント症候群 シンスプリント) ★下肢の筋ワーク		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 スポーツ障害について理解し解答することでインプット・アウトプットを体現することができる。骨粗鬆症、骨折、くる病・骨軟化症について理解し説明できる。転移性骨腫瘍、骨肉腫、骨軟骨	教科書 配布資料など	第9回、第10回のスポーツ障害について各スポーツにおける障害の特徴や疾患をおさえ、小テストの対策をする。
	各コマにおける授業予定	●小テスト⑤: スポーツ障害 骨粗鬆症 骨折 ■教科書調べ くる病・骨軟化症 骨腫瘍(転移性、骨肉腫、骨軟骨腫)		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 脊髄損傷のパターンと障害を理解し説明できる。日常的に遭遇する可能性のある熱傷への対応ができる。	教科書 配布資料など	教科書の内容からどのようなものが一般外科として扱われているのかを調べ下調べしておく。外傷がどのページに記載されているか調べて演習対策をしておく。
	各コマにおける授業予定	脊髄損傷 ■教科書調べ 一般外科(損傷とは) 熱傷 凍傷		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標 日常的に遭遇する可能性のある出血への対応ができる。また、救急処置が必要な場合に率先して、バイタルサインの確認や、心肺蘇生が行えるように備えられる。	教科書 配布資料など	教科書の内容からどのようなものが一般外科として扱われているのかを調べ下調べしておく。
	各コマにおける授業予定	一般外科 ショック 出血・止血 救急処置 心配蘇生術		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標 病院において鎮痛や筋弛緩が必要な治療は何であるのかを知ることで、麻酔について分類できる。痛みと鍼灸治療について考察し思慮を深めることができる。キーワード: 鍼麻酔、鍼鎮痛、痛	教科書 配布資料など	神経ブロックについて下調べをしておく。
	各コマにおける授業予定	麻酔(全身麻酔と局所麻酔の分類、神経ブロック)		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標 第1回～第14回までの整形外科疾患についての問題に解答できる。各疾患の重要事項・重要単語を理解しつつ覚えることで国家試験の臨床論系問題に解答できる。	教科書 配布資料など	小テスト①～⑤について空欄を使用するなどして試験対策資料を作る。小テストが揃っているかと、解答が調べてあるか確認する。
	各コマにおける授業予定	第1回～第14回での授業内容である整形外科疾患についての問題に解答することで各疾患の重要事項・重要単語を想起する		

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第16回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	脳血栓と脳塞栓を区別して説明することができる。 重要単語を教科書から自分で抽出しプリントを完成できる。	教科書 配布資料など	教科書の神経疾患P235～274について目次を参考にどのような疾患が含まれているか概略程度をおさえておく。中枢神経の形態を復習しておく。
	各コマにおける授業予定	脳血管障害: 高次脳機能障害・虚血性と出血性(脳梗塞、脳出血、一過性脳虚血発作) 脳梗塞★練習問題★ 一過性脳虚血発作■教科書調べ		
第17回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	クモ膜下出血について説明できる。教科書や配布資料を参考に練習問題が解ける。分類された髄膜炎の特徴を説明できる。	教科書 配布資料など	第16回の講義内容の中から虚血性と出血性についてどのような疾患があったかを復習する。解剖学で学習した脊髄や髄膜について復習しておく。
	各コマにおける授業予定	脳血管障害: 出血性 (クモ膜下出血) 出血性脳血管障害★練習問題★ 感染性疾患(髄膜炎、ポリオ)		
第18回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	脳血管疾患について理解し解答することでインプット・アウトプットを体現することができる。分類されたそれぞれの脳腫瘍の特徴が説明できる。	教科書 配布資料など	第16回、17回の講義内容の中の脳血管疾患について重要である単語やキーワードについて復習し、小テスト対策をする。
	各コマにおける授業予定	●小テストI: 脳血管疾患 脳・脊髄腫瘍: 脳腫瘍、脊髄腫瘍(神経膠腫、髄膜腫、下垂体腺腫、神経鞘腫)		
第19回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	パーキンソン病の特徴的症状を述べられる。教科書や配布資料を参考に練習問題が解ける。	教科書 配布資料など	解剖学で学習した大脳基底核について復習しておく。錐体路・錐体外路について復習しておく。肝硬変について復習しておく。
	各コマにおける授業予定	基底核変性疾患: 大脳基底核とは? パーキンソニズム(パーキンソン病、ハンチントン舞蹈病、ウィルソン病) パーキンソン病■教科書調べ 第19回をふり返って★練習問題★		
第20回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	パーキンソン病について理解し解答することでインプット・アウトプットを体現することができる。教科書における、その他の変性病について教科書から重要単語を記入し、資料を完成すること	教科書 配布資料など	第19回の講義内容のパーキンソン病について重要である単語やキーワードについて復習し、小テスト対策をする。下行性・上行性伝道路を復習しておく。
	各コマにおける授業予定	●小テストII: パーキンソン病 その他の変性疾患 脊髄小脳変性症、脊髄空洞症、進行性核上性麻痺■教科書調べ		
第21回	講義形式 授業を通じての到達目標	分類された、それぞれの認知症の違いについて説明できる。筋ジストロフィーのそれぞれの分類におけるキーワードを述べられる。	教科書 配布資料など	認知症にまつわる話や問題点について調べておく。若年性アルツハイマーを題材にした映画やドラマを見ておく。おおまかな脳の部位を復習しておく。
	各コマにおける授業予定	認知症性疾患(アルツハイマー、脳血管型認知症、レビー小体型認知症、ピック病) 筋疾患(筋ジストロフィー)		
第22回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	筋ジストロフィーについて理解し解答することでインプット・アウトプットを体現することができる。筋萎縮性側索硬化症の症状を上位と下位に分けて説明できる。顔面神経麻痺の症状を挙げ	教科書 配布資料など	第21回の講義内容の筋ジストロフィーについて重要である単語やキーワードについて復習し、小テスト対策をする。上位・下位運動ニューロン、脳神経の中核と働き
	各コマにおける授業予定	●小テストIII: 筋ジストロフィー 運動ニューロン疾患(筋萎縮性側索硬化症) 末梢神経疾患(ギランバレー症候群、顔面神経麻痺)		
第23回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	それぞれの神経痛の特徴を説明できる。他の疾患と関連のある神経痛を挙げることができる。	教科書 配布資料など	三叉神経、肋間神経、坐骨神経、後頭神経の走行を復習しておく。緊張型頭痛と片頭痛の痛みの特徴の違いを予習しておく。
	各コマにおける授業予定	神経痛(三叉神経痛、肋間神経痛、坐骨神経痛、後頭神経痛) 坐骨神経★ワーク		
第24回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	顔面神経麻痺について理解し解答することでインプット・アウトプットを体現することができる。頭痛の種類による特徴を述べられる。	教科書 配布資料など	第23回の講義内容の顔面神経麻痺について重要である単語やキーワードについて復習し、小テスト対策をする。女性の癌(子宮や乳腺)について下調べをしておく。
	各コマにおける授業予定	●小テストIV: 顔面神経麻痺 機能的疾患(頭痛: 緊張型頭痛、片頭痛、群発頭痛)		
第25回	講義形式 授業を通じての到達目標	皮膚疾患とアレルギーの関連を説明できる。各疾患の症状として現れる皮膚病変がどのようなものか説明できる。	教科書 配布資料など	病理学でのアレルギー分類と関連疾患を復習する。外科的感染症には何があつてどういふものか、教科書を読んで予習しておく。
	各コマにおける授業予定	皮膚科疾患(接触性皮膚炎、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、円形脱毛症) (皮膚病変一覧、外科的感染症)		

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第26回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 頭痛について理解し解答することでインプット・アウトプットを体験することができる。主な眼疾患について簡単に説明できる。	●小テストV:頭痛 眼科疾患(結膜炎、角膜炎、麦粒腫、白内障、緑内障、眼精疲労)	教科書 配布資料など	第23回の講義内容の頭痛について重要である単語やキーワードについて復習し、小テスト対策をする。教科書の眼科疾患に目を通しておく。
	各コマにおける授業予定				
第27回	講義形式	授業を通じての到達目標 主な耳鼻科疾患について、それぞれを説明できる。伝音性と感音性の難聴の違いが説明できる。	耳鼻科疾患 (メニエール病、中耳炎、突発性難聴、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎)	教科書 配布資料など	解剖学的な外耳・中耳・内耳の構造物の復習をしておく。副鼻腔にはどんなものがあったかを復習しておく。
	各コマにおける授業予定				
第28回	講義形式	授業を通じての到達目標 統合失調症とうつ病の違いが説明できる。心身症とは何か説明できる。神経性食欲不振症について説明できる。	精神科疾患(神経症、統合失調症、うつ病、アルコール依存症) 心療内科(心身症、神経性食欲不振症、神経性過食症)	教科書 配布資料など	心身症についてインターネットなどを使用して調べてみる。またアルコール依存症やアルコールの関連する疾患について調べておく。
	各コマにおける授業予定				
第29回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標 小児の疾患における神経症のそれぞれについて説明できる。自己分析によって自分自身を見つめなおすことができる。	小児科疾患(神経症:不安神経症、神経性抑うつ、対人恐怖) (夜尿症:多量遺尿型、排尿機能未熟型、冷えによる夜尿) 交流分析法による自己分析 ■ワーク	教科書 配布資料など	小児鍼、鋲鍼、接触鍼などについて調べておく。第28回の神経症についての内容を復習しておく。夜尿症について調べておく。
	各コマにおける授業予定				
第30回	演習形式	授業を通じての到達目標 第1回～第14回での授業内容である整形外科疾患について理解し解答できる。各疾患の重要事項・重要単語を理解しつつ覚えることで国家試験の臨床論系問題に対処し解答できる。	各疾患の重要事項・重要単語の想起 第1回～第14回での授業内容である整形外科疾患についての問題	教科書 配布資料など	小テストI～Vについて空欄を使用するなどして試験対策資料を作る。小テストが揃っているかと、解答が調べてあるか確認する。
	各コマにおける授業予定				
第31回	授業を通じての到達目標				
	各コマにおける授業予定				
第32回	授業を通じての到達目標				
	各コマにおける授業予定				
第33回	授業を通じての到達目標				
	各コマにおける授業予定				
第34回	授業を通じての到達目標				
	各コマにおける授業予定				
第35回	授業を通じての到達目標				
	各コマにおける授業予定				